

タバコを吸うと味覚や嗅覚に影響がでる事を知ってもらいました。タバコの煙に直接さらされる舌や鼻が、そのダメージを受ける事は簡単に予想できますよね。ところが、一見まったく関係がなさそうな眼がダメージを受けるなんて想像できるでしょうか。じつは左下図にあるように、視野の中心がぼやけて薄暗く見えたり、ゆがんで見えたり、部分的にかけて見えたりする「かろうはんへんせいしょう加齢黄斑変性症」という病気と喫煙は関係あるのです。

私たちは眼の網膜に届いた光をもとに脳で画像に変換されたものを「見ている」のですが、光が集まってくる網膜の中心に黄斑と呼ばれる1.5~2mm

程度の部分に異常があると、このような症状がでるのです。

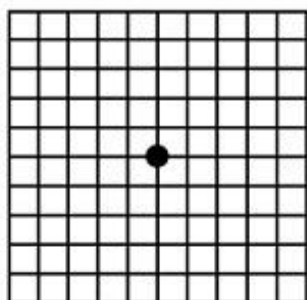
この病気の原因は、黄斑にある毛細血管が詰まって血液が流れなくなる事がきっかけとなるそうです。

50歳以上になると発症する事が多く、特に喫煙による酸化ストレスが眼に蓄積すると発症のきっかけとなると言われています。だから、加齢黄斑変性症の予防には禁煙が非常に重要なのです。

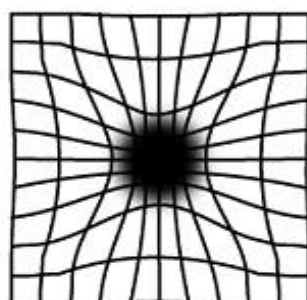
もちろん吸い始めなければ良いのですが、タバコは視覚にも影響を及ぼす事を知っておいてください。

産業デザイン科  
奥田 恭久

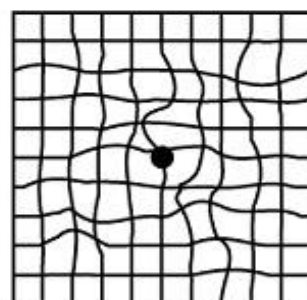
正常な場合



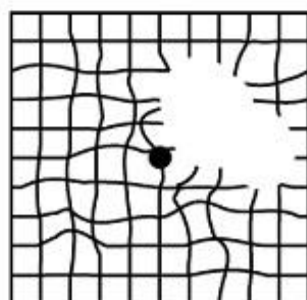
加齢黄斑変性の場合



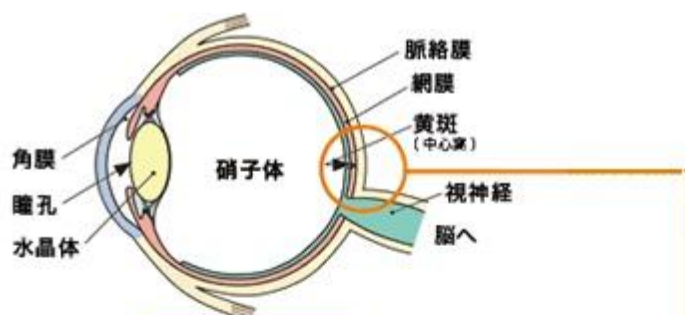
線がぼやけて薄暗く見える



線がゆがんで見える

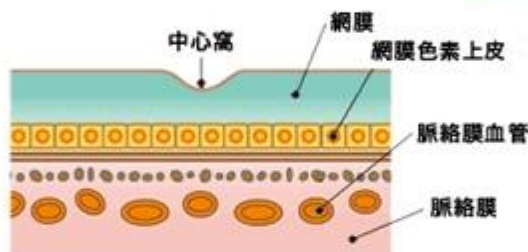


部分的に欠けて見える

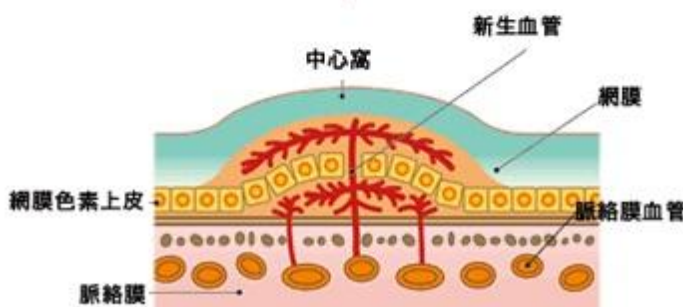


眼の構造

拡大



正常な黄斑の断面



脈絡膜から新生血管が発生した黄斑の断面 (滲出型加齢黄斑変性)

「加齢黄斑ドットコム」サイトから